

会議録要点記録

1. 会議名	石垣市子ども・子育て会議（第2回）
2. 開催日時	平成26年6月3日（火） 14:00～16:00
3. 開催場所	石垣市役所 第1会議室（2階）
4. 出席者	<委員> 石垣市子ども・子育て会議委員17名（2名欠席） <事務局> 児童家庭課長、教育委員会総務課長、学校指導課長、 学務課長補佐、学校指導課指導主事、他児童家庭課職員6名
5. 傍聴人	12名
6. 次第	1 開 会 2 委員自己紹介 3 議 題 （1）子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査集計結果について （2）ニーズ調査による見込み量の算出方法について （3）その他 4 閉 会
7. 配布資料	資料1 子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査集計結果報告書 資料2 見込み量推計に関する資料 参考1 「石垣市子ども・子育て支援会議」委員名簿 参考2 「第1回石垣市子ども・子育て会議議事録」
8. 会議の内容	以下のとおり

事務局	<p>1. 開 会 (14:00)</p> <p>2. 委員自己紹介</p> <p>3. 議 題 (1) 子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査 集計結果について 【(資料1) ニーズ調査集計結果について説明】</p>
会 長	<p>今、ニーズ調査の結果についてご報告いただいたということですが、これが次にこの後やるのに全部からんでくるわけなんですね。実際の数字やパーセンテージに応じてどういう必要量がでてくるかという説明があるかと思いますが、その前に今説明された範囲で何かご質問ありましたらそれぞれ言っていただければと思いますので挙手をお願いいたします。</p>
委 員	<p>問 13 であります、定期的な教育・保育サービスを利用しているかとの間で、利用しているという割合が 67.1%、していないが 28.9%となっていますけど、利用していないというのが約 30.0%近くもあるという事に驚いております、それはどういうことなのか説明していただきたい。</p> <p>また、問 15 について公立・認可の利用率が低く感じるが、人気がないのか。説明していただきたい。</p>
事務局	<p>利用していない理由の内容については、問 14-5 を確認していただきたいと思います。子どもがある程度の年齢に達したら利用したいということと、利用する必要はない、在宅で子どもを育てますよという方々が含まれている部分と、利用したいけれども自分が利用したいサービスがない、あるいは料金が安い、場所が遠いといった理由で利用していないという回答でございます。ですから、この利用していないという方には潜在的な待機になる可能性がある子ども達も含まれているということがわかつてと思います。</p> <p>また、利用しているサービスで公立・認可の利用率が低いということですが、これは定員が決められているため、どれぐらいの受け入れのキャパシティーがあるかによって利用割合が少し変わってきています。人気があるとか無いとかではありません。</p>
会 長	<p>その部分が今後、どうしていくのかという問題が出てくるということなんです。</p>
事務局	<p>現在、認可外保育所のキャパシティーの容量が少し大きいということ、公立・認可の幼稚園や保育所の定員が少ないという現状があります。</p>

	<p>問 15 の定期的な利用を希望する教育・保育サービスの利用を希望（利用したいと考えている）という割合が高いという結果は、公立幼稚園や公立・認可保育所を利用したいという意向があるということです。つまり、公的な施設の利用意向が高くなっているということで、今後は、公立幼稚園や公立・認可保育所の基盤の拡充だとか質の向上をどのような形で計画し整備していくかという事がまさに子育て会議の重要な課題になるという事をご理解いただきたいなと思っております。</p>
<p>委 員</p>	<p>問 5 の配偶者がいないというところですね、9.3%約 1 割ですか。一人親世帯は、県内ではだいぶ減ってきていますが、石垣市でも一人親世帯は減ってはいると思いますが。これと関連して、問 13 の回答で、「利用していない」と回答した中には、経済的な事情もそこには含まれているのではないかなと思いますね。</p> <p>問 14-5 の回答で「利用したいがサービスに空きがない」、「利用したいが経済的な理由で利用できない」というのが、1 人親世帯に関連しているのではないかなと思いますけどね。問 7 にも関連してくるかなと思いますけど。</p>
<p>事務局</p>	<p>問 14-5 ですね。「利用したいが保育・教育サービスに空きがない」、「経済的な理由で利用できない」というのが潜在的なニーズと捉えていいと思います。問 5 の「配偶者はいない」という 3,500 世帯のうち 350 世帯ぐらいはそう回答しているという話ですけども、石垣市で今現在 900 世帯ぐらいは一人親世帯がいるということで、一人親世帯とういのは受け入れ増加傾向にあると言われてるようです。ですから、一人親世帯は就労・未就労にかかわらず保育ニーズの容量が高いというふうに考えられるタイプ A という潜在的な家庭と認定されます。</p>
<p>会 長</p>	<p>それがこの中に反映されているという事ですね。</p>
<p>委 員</p>	<p>問 14-2 の教育・保育サービスの利用状況で、「5 日から 6 日」が一番多いですよね。利用時間が「8 時台」、「15 時以降」が一番多い。それと、一週あたりの希望利用日数が 5 日が 25%、7 日が 29%あります。保育時間が 8 時間から 11 時間のほうが多いですよ。この結果を、これからの保育サービスに反映していくことを考えてほしいなと。</p>
<p>会 長</p>	<p>わかりました、ご意見として聞かせてもらいました。ただ希望当たり利用時間で無回答がこれだけ多かったですね。無回答が半分くらいになって、ごく当たり前だから書かなかったのか。特に理由はないですか？</p>
<p>事務局</p>	<p>特に理由はないです、書いてなかっただけです。平均時間 11 時間の中で、ある程度の数量が入っていますのでそれぐらいになるだろうと。それ以外は、延</p>

委員	<p>長保育とかの利用で対応できるんじゃないかなと考えておりますが、「5日」というのは月から金曜で「6日」というのは当然土曜日を含めた話になっています。土曜日の保育ということについても検討の余地はあるのかなというのは、このニーズ調査からもわかっています。</p>
委員	<p>問 25 について、放課後の時間の過ごし方についてというところで低学年 1 年から 3 年生、あと回答がでていますが石垣市放課後児童健全育成事業を利用している方が 26.2%、自宅が 39.0%ということができています。私はいま学童保育をしていますけどそのアンケートを私たちも見ました。利用者や保護者にも聞いてみました。まわりの人たちに聞くと預けたいけどお金がないという理由が多くありました。この問題を解決しない限りは石垣市の学童保育は発展しないんじゃないかなと思います。また、石垣市の学童は民間が経営しています。現在、5 園で連絡協議会を組織していますが、全部民間です。民間でなくて石垣市の公立施設ができれば違ってくるこのデータを見て感じました。利用したい子・親は多くいます。自宅で何をしているのか、ここに大きなポイントがあると思いますけど。やはり 1 年生、低学年のうちは学校帰りが早く心配ですよ。それがクラブでもどこでも行って遊べる場所があれば、私は安心ですけど、それが無い限り放課後児童クラブは必要じゃないかと感じております。石垣市放課後児童健全育成事業は、国から公正化された補助金があり、それを基にして運営しています。でも、それでは運営できないという状態が 5 園では明確にできています。</p>
事務局	<p>石垣市の学童保育の整備率が低い、利用割合が低いという状況が自由意見の中に、アンケートの中に初めて児童クラブを聞いた・見たという割合が高いのでこのニーズ調査からは比較的安く出ていると認識しておりますのでこれは十分反映させていきたいと思います。</p>
委員	<p>このアンケートの中には複数回答できるとあります。複数回答しているのか、それとも 1 番近いところ 1 つだけ選びなさいという回答の仕方なのか教えていただけませんか。</p>
事務局	<p>このアンケート調査で複数回答の場合は横棒グラフが示していて第 1 位、第 2 位という回答のしかたをしています。二次調査票からは、年齢が細かく 0 歳から 5 歳までの個別の調査ニーズといのはまた別のものにとってあり、全体的な集計に関しては複数回答で 1 つにまとめて出しているということです。</p>
委員	<p>1 つ選んだ人、複数選んだ人がいると判断してよろしいですか。</p>
事務局	<p>はい、そのとおりです。</p>

<p>会 長</p>	<p>見込量の算出についてのご説明に移ってよろしいでしょうか。これはすごく難しいです。この見込量ということが基礎となって必ずしもその数がそのままというわけでもないですけど、見込量が基礎になって今後の必要なものを制度的にどうするかということになります。ですからこの部分はどういうふうに出されたかを双方で了解していかないと次に行ったときの難しさがあると思うのでよろしくをお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>(2) ニーズ調査による見込み量の算出方法について 【(資料2) ニーズ調査の結果に基づく、「見込み量」の算出の考え方について説明】</p> <p>認定子ども園の幼稚園型になれば、市町村が実施する一時預かり事業の認定、子ども子育て事業の類型を比較して預かり保育ではなくて一時預かり保育として実施することができる。</p> <p>1号認定の場合は3歳から5歳の教育時間、石垣市の場合には4歳から5歳となっている。この3歳の保育・教育の枠はどうするのかという議論が出てくると思います。基本的にこれまで4歳から5歳までを預かっていた幼稚園についても3歳からやっという将来の判断をするのか。現状は4歳から5歳までの幼児教育をするということで3歳については保育所で保育のみ実施するのか、それともいくつかの認定子ども園を作って、3歳から5歳までの保育・教育の枠について拡充を図るのか。基盤整備の組み合わせによって0歳から5歳までの保育整備の在り方というものを検討していく必要があると思います。</p>
<p>委 員</p>	<p>現在、1歳から5歳までやっという、その場合3歳児～5歳児は子ども園、あとの1歳児2歳児、3歳児から5歳児まででしたら認定子ども園といいますか、そうすると認可外ですが1歳児から2歳児までの子ども預かりは切り離してということになるのですか。</p>
<p>会 長</p>	<p>いえ、保育園は保育園のままでいいですよ。制度としてあるので。幼稚園は基本的に3歳児からですよ。だから3歳児からどうするか、そして今の場合は、石垣市だと3歳児5歳児の預かり保育はやっています。今度の新制度では公立の幼稚園は預かり保育はできません、預かり保育をするのであれば認定子ども園という制度にのってということを行っています。</p>
<p>事務局</p>	<p>幼稚園が制度にのらないことはあり得ないということなので、新制度に基づく認定子ども園の幼稚園としてくださいということになっています。その中で、預かり事業というのはできなくなりますということなので、施設型給付を受ける幼稚園は、各市町村の子ども子育て支援事業の一類型を受託して一時預かり事業をしてくださいということです。認可外については、市町村の認定を受けて認定子ども園制度にのるか、現状維持で認可外保育所かのどちらかを選</p>

	<p>択していただくこととなります。</p> <p>今回は、1号認定から3号認定の方々の平日の保育のニーズ量に対して石垣市はどのくらいあるのかということを見て頂くための、これはあくもでも保護者の利用意向に基づいて必要量を出したものだけと考える頂きたい。利用したいという数値、見込量というのはその必要量に対して石垣市が今後5年間、あるいは10年間でどのような保育基盤の整備をするか、その整備によって受け入れ枠をこれだけ確保しますよといったときに、その確保に対する量というのが見込量となっていくと思います。次回の「第3回子ども子育て会議」で、市の保育基盤整備の方向性というものを事務局側から案として示し、「子ども・子育て会議」で議論をしていきたいと思っております。</p>
<p>会 長</p>	<p>ありがとうございました。例えば、0歳の子供達親のニーズ量について233人ですね。それに対して公立保育園と認可保育園ニーズ量は出ています？いくら足りないかというのが出ると思っております。</p>
<p>事務局</p>	<p>約140名分くらいは足りないと出ています。</p>
<p>会 長</p>	<p>あくまで親の意向としての数だということ踏まえながら、年齢ごとにニーズ量をだしていただけないですか。そうしないと分からないですね。3歳から5歳までといっても、今3歳で幼稚園に入りたい子もいるわけですから。親のニーズとしてね。今、私立幼稚園のみが3歳児をやっている公立幼稚園は4歳少し、5歳。3歳から5歳までまとめてやると3歳が必要な人はどうなるのかという間が抜けるんですね。</p>
<p>委 員</p>	<p>私も会長の意見に賛成です。年齢別で出してもらった方が分かりやすい。どこでどうなっているかというののははっきり見える。</p>
<p>会 長</p>	<p>それに伴って保育所のほうも1歳、2歳と分ければちがいますよね。幼稚園でも同じです。親が必要とするニーズが今回の結果ですね。これから石垣市では、ニーズ量に対して既存の保育所やら幼稚園はどういう形があるのか、この「子ども・子育て会議」でどのくらいの量を見込むのか。そうすると、幼稚園や保育所においてもいろんな事を考えてくれるだろうと思っております。実際、実施計画策定は、国の方針や市の方針がってきます。そういうことも検討しなければならぬ。このことについて質問ありませんか。</p>
<p>委 員</p>	<p>最初に複数回答があったといいましたが、複数回答があるということはニーズ量が多くなりますよね。ニーズ量が多い、しかし今の計算の統計でいくとニーズ量は多くて施設量は少ないというのはどうしても確執的に出てくるような数字のようですがそのあたりはいかがですか。</p>

事務局	それは、複数回答というのは集計的に複数回答をただけです。0歳から5歳までの個別の数字が出ているのは全部年齢が出ているので単純に組み上げた数字になります。集計的には1枚の中に3人とか5人とか回答していきますけど、個別には各歳ごとに分かれて利用したい意向というのはでているので、その積み上げをやっているので統計的に幅がでるといとはない。
会 長	出てきた結果でどうしても矛盾がありそうだ、おかしいというところでまた話し合いしたらいいと思うんですね。
委 員	エリア別にニーズ量を出すことも可能ですか。
事務局	エリア別にも出すことができます。全国的には、中学校区単位と言われているんですけども集計していくと、石垣市の場合は市街地に約7割人口が集中しており、そこに保育基盤も集中しています。中学校区で区分しようとしたときには非常に密集した中で小さな区域になってしまいます。もう一つ、市街地外を考えたときには大きくなってしまふ。一地域の誤差が非常にありすぎるのではないかとということで、当面の間は、一市一区域で考えてはいかがでしょうかというご提案をさせていただき、ご了解をいただきました。ただ、中学校区でやりたいということであれば、中学校区域のなかで個別のニーズ量を出すことができます。
委 員	小学校地域に幼稚園が統合してできるといわれていますけど、老朽化している保育園と統合して幼保連携型の子ども園ができないのかと。それを石垣市はどう思っているのでしょうか。
事務局	ニーズ調査の結果を踏まえて量の見込の整理をしていく必要がありますのでここで結論を申し上げることはできませんけども、いずれにしても幼稚園の在り方、公立保育園の在り方については、行政でしっかりと方向性を示していきたいと思ひます。
会 長	実際的に、この「子ども・子育て会議」が12月くらいに具体的な数字を入れなければいけない。この時までにある程度、行政の考えている方向性を示していきたい。
事務局	今回は、8月の後半に開催予定をしており、条例の基準の提示、保育基盤の方向性について提案したいと思ひております。見込量の考え方等も含めて各関係機関の方とも意見交換会・勉強会の方を開催し、次回の会議で提案できたらと考えておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

